

令和元年度第2回 岐阜県青少年育成審議会 議事録

日 時	令和2年2月28日(金) 10:00~12:00
場 所	岐阜県庁 議会西棟 2階 第3会議室
出席者	<委員> 11名(欠席委員9名) 田村委員、川瀬委員、成田委員、本多委員、深谷委員、横井委員、 国枝委員、寺田委員、柏田委員、磯谷委員、多田委員、 <県> 9名 服部環境生活部長、河田私学振興・青少年課長、 石神学校安全課生徒指導企画監 他

会議の概要

- 1 開会
- 2 環境生活部長あいさつ
- 3 条例の規定に基づく報告事項
(1) 有害興行の緊急指定について
(2) 有害図書類の指定、優良興行の推奨について
- 4 審議事項
(1) 「第4次岐阜県青少年健全育成計画(仮称)」について
- 5 その他
(1) 青少年の新たな性被害の現状について
(2) 岐阜県青少年育成事業の主な取組状況について
- 6 意見交換
- 7 閉会

議事の概要		
進行次第	発言者	発言
意見・質疑等	田村会長	<p><議事録署名者の指名> 会長から本日の議事録署名者に、本多委員、深谷委員を指名した。</p> <p><有害興行の緊急指定について（報告）> 有害興行の緊急指定について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><有害図書類の指定、優良興行の推奨について（報告）> 有害図書類の指定について、事務局から資料に基づき報告した。</p>
	磯谷委員	<p><意見・質疑等> 久しぶりの優良興行の指定であった。今後も推奨作品を審議して頂きたい。</p> <p><「第4次岐阜県青少年健全育成計画（仮称）」について> 第4次岐阜県青少年健全育成計画（仮称）について、資料に基づき事務局から説明した。</p>
	国枝委員	<p><意見・質疑等> ネット依存の定義について教えてほしい。</p>
	事務局	<p>ヤング博士が提唱した8つの項目のうち5つに該当する生徒がネット依存を疑われると定義されている。</p>
	国枝委員	<p>その項目とはどのような内容か。</p>
	事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネットに夢中になっていると感じますか。 2. 満足を得るためにはネットを使っている時間をだんだん長くしていかなければならないと感じますか。 3. ネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたがうまくいかなかったことがたびたびありましたか。 4. ネットの使用時間を短くしたり、完全にやめようとしたとき、落ち着きのなさ、不機嫌、落ち込みまたはイライラなどを感じますか。 5. 最初に意図したよりも、長い時間オンライン状態ですみますか。 6. ネットのために大切な人間関係、仕事、教育や出世の機会を棒に振るようなことがありましたか。 7. ネットのはまり具合を隠すために家族、治療者やほかの人たちに対して嘘をついたことがありましたか。 8. 問題から逃れるため、または絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みといった嫌な気持ちから解放される方法としてネットを使いますか。 <p>以上、8つである。</p>
	国枝委員	<p>アンケート結果は、この中の5項目に当てはまる小学生と中学生の割合となっているということか。</p>
	事務局	<p>その通りである。</p>

意見・質疑等

深谷委員

今までの4本柱が3本柱になり包括的になったということで、ひとつずつの柱の枝分かれしたものであるというのは、時代に合わせてフレキシビリティがあり、非常に効率的であると思う。

田村会長

インターネットの影響は様々なところで見られる。特に事件などには必ずインターネットが関わっているようにも思う。横井委員はそういった点に関して意見はあるか。

横井委員

P T Aでは、発達障害の子どもたちがもっと生きやすい環境にしていくにはどうしたらいいかを考えている。そういった子どもたちへの支援は計画のどこに入っているのか。2の「困難を有する青少年やその家族の支援」に入っているのか。

事務局

「困難を有する青少年やその家族の支援」のなかに発達障害の方への支援も含まれている。

田村会長

小学校からプログラミング学習が始まっている。悪いことではないが、保育園や幼稚園の子どもたちがスマホを扱っているのを見ると、これからの子どもたちは幼い頃からスマホの扱い方を覚えるというような時代になると感じる。中学や高校に入学するまでスマホを持たせないというような時代ではないかもしれない。小学生がスマホを使う時代にどのように健全育成をしていけばよいのか非常に難しい問題である。

国枝委員

「性被害から青少年を守る取組の推進」について、自撮り要求に関しては子どもたち同士で行われることもあるため、子どもたちに対して啓発活動を行っていくのは理解できる。しかし、JKビジネスに関しては大人側が仕掛けていることなので社会に対して啓発していくべきだと思う。したがって、3の「青少年成長のための社会環境の整備」に入れるべき内容ではないか。

事務局

この問題に関しては、どちらの取組の中にも位置付けられる部分であると考えている。今後、再掲等の形で整理していくことになると思うが、今回は、2の「困難を有する青少年やその家族の支援」の中に記載している。

田村会長

先ほど説明があったように、8月に骨子が完成し、それをもとに第1部会において議論を行い、その後、全体で審議を行うということで良いか。

事務局

今後スケジュールのところに、これからの予定が記載されている。審議会には第1から第3までの3つの部会がある。そのうち10名の委員で構成される第1部会では計画について審議していただく。その結果を受けて全体で審議を行う。

田村会長

次年度は青少年健全育成計画の改定の年であるので、例年よりも開催回数が増えると思う。

柏田委員

SDG's（持続可能な開発目標）というものがあるが、その中で言われているのは「誰も取り残さない社会を築く」ということである。青少年の現状を見るといじめは3倍に増えている。児童虐待も増加傾向にある。そういう社会の中でいかにとりこぼさないか。こういった枠組みがある中でどう現状の

意見・質疑等

課題に対応できるのか。現実に即し何が一番課題となっているのか、今後5年間でどのような問題が起きるのか。予見しながら効果的な計画を策定していただければと思う。

横井委員

3の「青少年の成長のための社会環境設備」のなかの「有害ゲーム等のコンテンツへの規制強化」とあるが、ゲームに限らず出会い系サイトやツイッター、インスタグラムなども有害コンテンツとして絡んでくると思う。「等」とはついているものの、ゲームとひとくくりにしてしまっても良いのか。

事務局

先ほど説明した有害図書や映画などに関しては調査対象として規制を行っている。ゲームやアプリ等については現状、規制ができていないため、そういった有害コンテンツに関する規制という意味である。

横井委員

ひとまず、ゲーム等と書かれているということか。

事務局

その通りである。

田村会長

資料を見ると、以前と比べてフィルタリングも浸透してきているという理解で良いか。

事務局

フィルタリングは携帯電話販売店に対して立入調査を実施し、浸透度は上がってきている。しかし、保護者が使っていた携帯電話を子供に渡し、回線が繋がらないWi-Fi環境で使用するケースが増えている。こうした従来のフィルタリングだけでは防ぎきれないものへの対策を今後は強化していく必要がある。

そのためには、有害コンテンツの規制と保護者の方へ管理（ペアレンタルコントロール）の徹底を行う必要があると考えている。

深谷委員

「1. 全ての青少年の健やかな育成」のなかで「自己肯定感の醸成」だけが突然出てくることに違和感を覚える。確かに、自己肯定感が乏しいという調査結果もあるが、自己肯定感だけ突出してキャッチフレーズのように使用すると、なんでも褒めて伸ばす教育になっていくのではないか。何でも「いいよ、いいよ」と褒めてあげることがどこまでも続いていく。昨今の教育では本質的な力をつけていくなかで自己肯定感は高まっていくという捉え方をしている。「自己肯定感の醸成」のところは全てを踏まえて、青少年の人格層といったあたりを網羅的にした方が良いと思う。

また、「2. 困難を有する青少年やその家族の支援」の中の「育成団体と支援団体の人材育成と連携」については、職業的自立の前に、普通のキャリア教育だと社会的・職業的自立社会といったように「社会」といった言葉が付くと思う。職業的自立だけにしてしまうと現実的ではないのではないか。

最後に、「3. 青少年の成長のための社会環境の整備」の中の「家庭の教育力の向上」については家庭教育が大事なことはもちろんだが、最近では地域で子どもを育てていく力が弱まっていることが問題となっている。地域と家庭の両方の育む力を啓発していく必要があると思う。

田村会長

いずれも大事な意見だと思う。自己肯定感の部分を、もう少し膨らませて考えると良いかもしれない。地域の教育力に関しては、県で家庭教育推進委員会がある。「地域子ども支援賞」というものを作り、地域の教育力をどんどん活性化しようという取組も続いている。家庭教育と限定してしまうと十

意見・質疑等		<p>分ではないと感じるのかもしれない。</p> <p>本多委員 私どもはどちらかというと困難に陥ってからの対応のほうが多い。自己肯定感が必要だと思うが、それだけが突出するのはどうかと思う。 発達障害の件については我々も苦勞している点が多い。もう少しバックアップされてもいいのではないかと思う。</p> <p>成田委員 色々な所でインターネットに関する問題が起こっている。その対策が強化された形であればよいと思う。また、いじめ、ひきこもり、貧困の問題については青少年の居場所づくりが大事になってくると思う。相談するところやひきこもった場合に、どこが支えるかはっきりしていると良い。</p> <p><青少年の新たな性被害の現状について> 青少年の新たな性被害の現状及び岐阜県青少年健全育成条例の一部改正(案)について、資料に基づき事務局から説明した。</p> <p>田村会長 性被害の現状と、条例の一部改正についても説明があった。令和3年4月改正予定、自画撮りやJKビジネスを中心に規制をしていくということで進めたいということであったが、このことについて何か意見はあるか。</p> <p>田村会長 意見等、特に無いようなので、事務局から説明があった方針で進めていくということで良いか。</p> <p>全委員 異議なし</p>
意見交換等		<p><意見交換会></p> <p>寺田委員 ネット依存予防教室については、他県でのモデルケースなどを参考にプログラムを構築するのか。また、対象者は重度のネット依存者なのか、それともネット依存予備軍のような人なのか。</p> <p>事務局 ネット依存予防教室については国立青少年教育振興機構が既に、久里浜医療センターを中心として行っている。マニュアルやアドバイスをいただきながらこちらでも進めていきたいと考えている。他県に関しては全国的に推し進めているところが少ない。対象者については今後、決めていきたい。久里浜医療センターの例を参考にすると、昼夜逆転してしまい学校に行くことができないが、健全な生活に戻りたいという意志がある子どもが現在参加している。</p> <p>多田委員 ショッピングセンターでは、青少年関係で言うと、最近フードコートを図書館がわりに勉強する人が増えている。フードコート自体は安全なので利用して頂いても問題ないが、喧嘩や揉め事に巻き込まれないか心配している。たとえば、万引きは以前と比べて減っている。背景として、警備員が、万引きが多い場所、時間帯を重点的に警備することで減ってきたということと、万引き行為がネット犯罪にシフトしていることの両方があると考えている。 また、グループになると、ゴミ箱を壊してみよう、入ってはいけない場所に入ってみよう、他のグループと喧嘩してみよう、など、一緒に悪いことをする可能性が高まる。</p>

意見交換等	田村会長	たしかにフードコートで勉強している高校生をよく見る。
	多田委員	特に年明けから多くなってきている。土日の混雑しているときは、1日中4人掛けの席を一人でとっていることがあり、お店側としても迷惑なので食事時には配慮してもらえよう張り紙を出している。
	田村会長	ネット依存についてだが、青少年の親については、ここでは対象外になっているが、電車に乗っても10人が10人乗った途端にスマホをやりだす。家庭でもそうだと思う。子どもだけでなく親もずっとスマホをやっている。子どもをどうこうするのももちろん大事だが、親がやっていたら子どもに注意できない。難しいとは思いますが、家庭教育力の向上の部分で何かできないかと考えている。
	横井委員	ゲーム依存についてだが、今の中学生くらいの子は、ライブ配信でゲーム実況（動画サイトに自分がゲームをやっているところを上げる）など、垣根が分からなくなっているように思う。外に、公に出すことがどれだけ危険なことであるか今の子はあまりにスマホが身近にあり過ぎて分かっていない。そういった教育を保護者として学校等にもお願いしたいと思う。青少年の教育として何かしていけたらと思う。
	川瀬委員	SNSやLINEアプリでの被害について、例えばLINEのグループ機能では誰かを退会させ仲間外れにすることができる。自分自身が実行しなかったとしても、結果として誰かを傷つける加害者になってしまうため対策が必要だと感じている。
	磯谷委員	委員を務めて何年も経つが、昔はテレフォンクラブなどについて審議会で話し合いをしていたことがあった。そう考えると、これから5年先の社会情勢は急激に変化していきだろうと感じている。 子どもが小学生から携帯電話を持つようになることの社会的な弊害は、今後、様々な部分に影響を与えていくのではないかと。 現在の課題をどのように対処するかについては骨子のなかに盛り込まれているが、今後5年間のことも踏まえられたら更に良いと思う。
	国枝委員	LGBTについては、青少年の教育において、外国人なども含めて、多様性を育てていくうえで、ある程度先の社会の中ではしっかりと意識付けしていく必要がある。 デジタル社会については、スマホは必要不可欠なものであると感じている。知りたいことを辞典で調べるよりも効率的であるし、あとはモラルの問題だと思う。デジタル社会に対してどのように前向きに取り組んでいくかという視点がないといけない。あまり否定的では時代に遅れていってしまうと思う。
	事務局	LGBTについては、今の計画ではそこまで配慮できていない。先程、磯谷委員からもあったように予想しうる部分で言えば十分検討余地がある。これから多様性の社会になっていくことを考えると検討したい。
田村会長	日本生まれの外国人が地域によっては小学生でもかなり増えている。先程のSDG'sについても、こういった課題にどう対応していくか考えないといけない。	

意見交換等	<p>柏田委員</p> <p>事務局</p> <p>柏田委員</p> <p>事務局</p> <p>柏田委員</p> <p>事務局</p> <p>田村会長</p>	<p>人材の育成と連携については、「困難な兆し」に気付くことは非常に大事だと思う。このための指針作りにあたり、どのように困難に気付いていくのか。</p> <p>困難な兆しについて考えるにあたり、青少年育成支援協議会において実際に支援されている現場の方々や育成団体の方々にお集まり頂き、青少年が困難の状態に陥らないためにはどのようなことが必要かということについて意見交換をした。それをもとに実際に県内の団体に対して調査をした。実際にマニュアル化するには、経験則や事例を積みながら「実際にこんな支援をした」や「どのように他の団体につないだか」といったことをまとめていけたらと考えている。このような取組を積み重ねていき、支援団体の方が早めに気づき、繋いでもらう輪ができればと考えている。</p> <p>とりこぼさないようにすることが重要である。</p> <p>未然に防ぐことは難しいことではあるが、より多くの情報を共有することや様々な関係者に協力してもらうことで取り組んでいきたい。</p> <p>モデルケースだけ決めて、具体的な実践がなかなかできない現状がある。そこで直接つながるような、例えば人材派遣ができるような取組を期待したい。いずれかの団体が単体で実施していくのには限界があるため他団体との連携をどう強めていくかが課題だと思う。</p> <p>先日、青少年育成支援協議会を開催したが、連携について話題となった。いかにして支援団体同士で連携していくか。また、育成団体とも連携をしていくか。連携というと1対1の部分があるため、連携にプラスしてネットワークづくり、網目の細かいネットワークづくりで子どもたちが落ちてきそうなところを救えるようなそういった面のネットワークづくりが必要なのではないか、という意見があった。</p> <p>団体同士でも、隣の団体が何をやっているのか分からないことはある。県でも横のつながりを作り各課が連携を行っている。引き続き連携していきたい。貴重な提言、問題提起をしていただいたので事務局でまた検討できるのであれば考えてほしい。</p>
-------	--	---